

参拝記念「栞」

真宗本廟

この栞は御影堂門の柱の鍔金物の「獅子」を図案としました。

牡丹に戯れる獅子の姿です。獅子は釈尊の覚りの智慧を表わす文殊菩薩の眷属です。また『仏説無量寿経』には、仏さまの説法が「獅子吼」と説かれ、すべての衆生に声が届けられることが表現されています。

わたしたちの先達が浄土真宗の教えを相続し、この真宗本廟・東本願寺を護ってこられました。そのお心に触れていただければ幸いです。



QRコードを読み取ると、お手元にある獅子の図案がどの柱にあるか、その場所をご覧いただけます。

真宗本廟
東本願寺



真宗本廟（東本願寺）参拝記念品

<https://www.higashihonganji.or.jp/lp/shishi32/>

尊い御懇念をお納めいただき、ありがとうございます。

記念品の「葩」・「栞」に描かれた獅子は
どんな表情をしていますか。

ぜひ御影堂門の鋳金物かざりかなもの「獅子」を間近でご覧ください

御影堂門（重要文化財）の柱の鋳金物「獅子」は全部で 32 頭います。

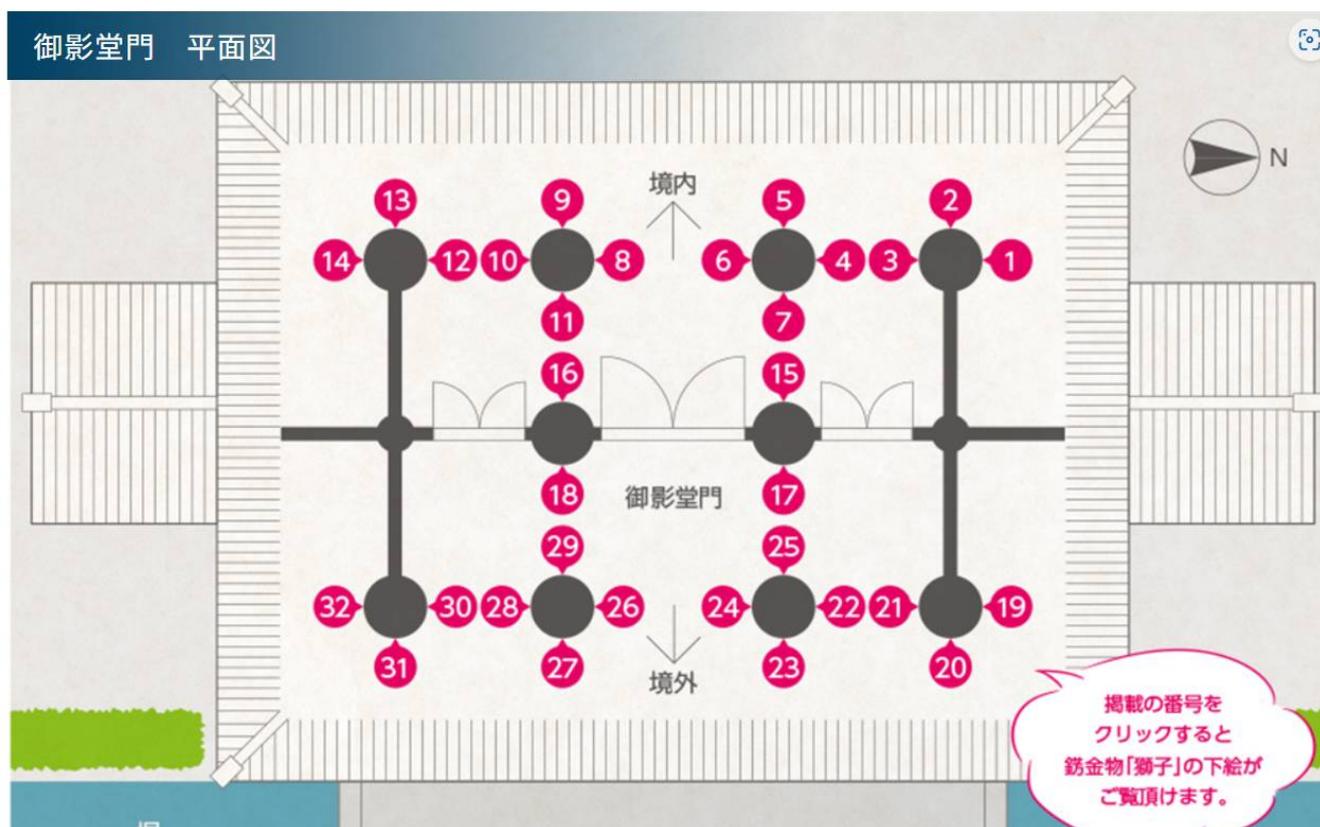
御影堂門の楼上には、釈迦三尊像（釈迦如来・彌勒菩薩・阿難尊者）が安置されております。これは、『仏説無量寿経』の会座えざを表しており、私たちは御影堂門をくぐることで、『仏説無量寿経』の世界、浄土の教えの世界に入ることとなります。

鋳金物の獅子は、釈尊の覚りの智慧を表わす文殊菩薩の眷属で、文殊菩薩の国で牡丹と戯れている姿が表現されています。

また『仏説無量寿経』などのお経に、仏さまの説法が「獅子吼」と説かれ、百獣が獅子に随うさまに、すべての衆生が頭を垂れ、聞法している姿が喩えられています。32 頭の獅子は、それぞれ表情や所作が違って
います。

仏法の尊さを現す獅子の姿をご縁に、先達が浄土真宗の教え（法義）を相続し、真宗本廟・東本願寺を護持してきた想いに触れてください。

お手元の「葩」・「栞」に記載してある番号を下記の御影堂門 平面図からお選び頂き、クリックして獅子の下絵をぜひご確認ください。



山本が頂いた 栞 は 26 番の獅子でした

